Vol.37　単音のミュートバッキングを弾いてみる

『10 分トレ』vol.37、始めていきましょう。

今回は、【教科書】の vol.15&16 でやった様な、ブリッジミュートを軽くかけた単音のバッキングフレーズを弾いて行きたいと思います。

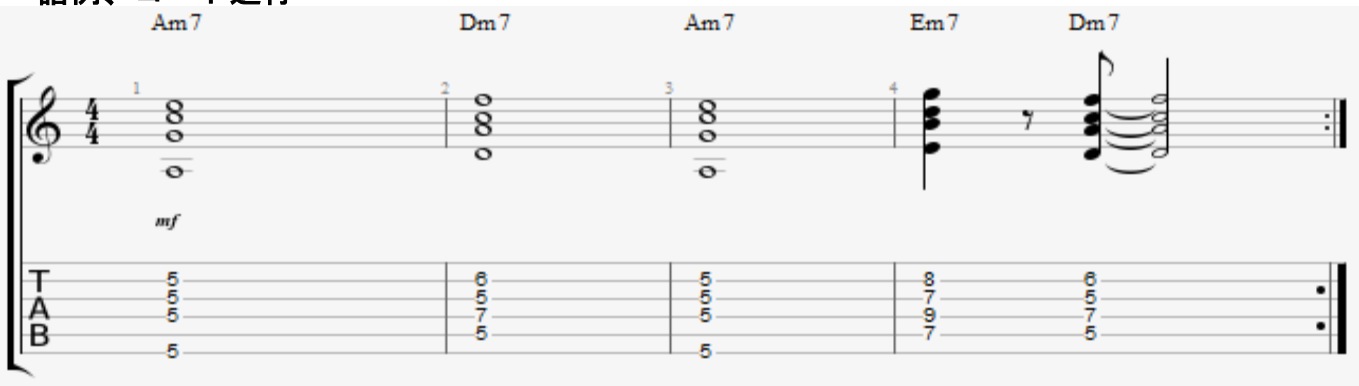
この手の奏法は、楽曲全体で鳴っているパートが多い時や、ファンクなどのジャンルで、ベタッとしたニュアンスを出したくない時などに使う事が多いですね。

ある程度、奏法としては決まった動きをする事になるので、ここで学んでおきましょう。

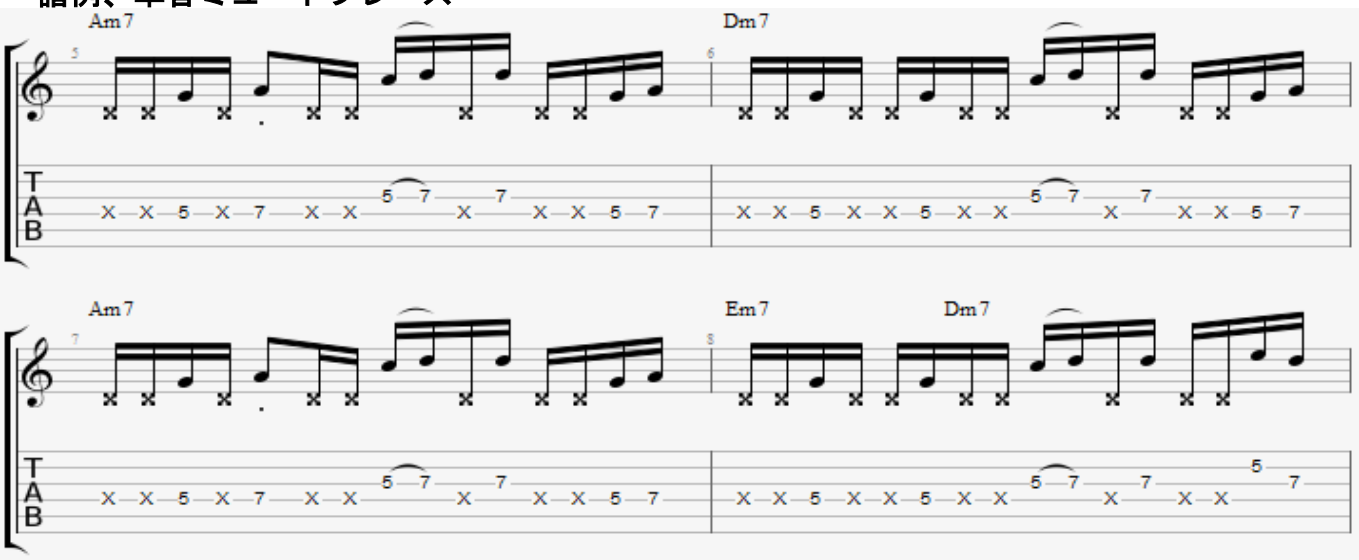
では、元にするコード進行とフレーズは以下になります。

テンポは 120 位を想定していますが、少し早いので 100～くらいまで下げても構いません。

譜例、コード進行



譜例、単音ミュートフレーズ



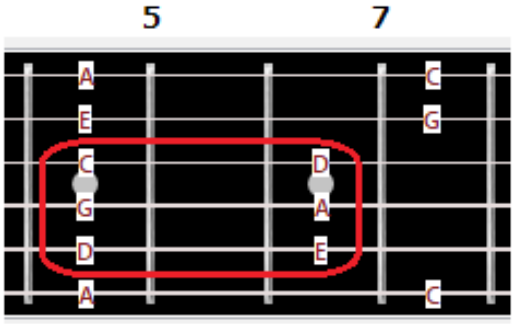
Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

見ての通り、Am キーの進行です。

ここで覚えておきたいのは、この手のフレーズは、例外もありますが「(大部分が)ペンタで弾かれている」と言う事です。

今は Am キーなので Am ペンタですね。

で、大概の場合、フィンガリングのしやすい、この辺りが使われます。



先ほどのコード進行をバッキングとして録音した上で、上記赤枠の範囲を適当に弾いてみても、それなりにしっくりくるはずです。

細かい事を言えば、進行で出てくるコードによって、鳴らさない方が良い音もあるので、その時は使う音を考えなくてはなりませんが。

とりあえず現段階では、このテキストで指定してある範疇で色々とフレーズをいじってみて、他にカッコいい動きが無いかを試してみて下さい。(※もちろん他のアイディアを使ってもらっても構いません)

後、テクニカルな部分では、基本的に、ほぼ右手のパームミュート(ブリッジミュート)はかけっぱなしですが、ハンマリングをする場所だったり、比較的、高音部を鳴らす場合等はミュートを外してみると、アクセントが付いて良い演奏になります。

リズム面では、所々、16 分音符のゴーストノートを抜いてみるパターンも試してみましょう。

それでは、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved